

日本民営鉄道協会理事長の羽尾一郎です。

本日は、「運輸総合研究所」と「日本民営鉄道協会」の共催の運輸政策セミナーを、多数の皆様のご参加のもと、無事に開催できましたことに、心より御礼申し上げます。

当協会が、主催者に名を連ねたこともあり、協会加盟の民鉄各社を含め、多くの鉄道事業者の参加を得られたとも聞いており、嬉しく感じています。

何よりも、当協会としても、このような伝統と格式のあるセミナーの主催者の一員に名を並べさせて頂けたことにも感謝している次第です。

まず、プレゼンテーションを頂き、また、パネルディスカッションにも参加賜りました皆様、太田様、谷様、鈴木様、植村様、内藤様、寺田様、そして、上村様、渡邊様の皆様には、貴重なアドバイスや、取組内容と地域の実情の的確なご紹介など、示唆に富み、具体的にわかりやすく、中身の濃いご説明・コメントを頂き、本当にありがとうございました。

各社の様々な努力で進められてきた沿線開発ですが、人口が減少し、コロナ禍も経て、利用者や関係住民のニーズや嗜好が多様化し、その意識と行動が変化している中で、民鉄各社の沿線との関わり方も変化、進化してきています。

本日の事例紹介でも、その一端をうかがうことができました。

特に、本日のセミナーで印象深く聞かせて頂いたことを、個人的な感想として挙げますと、

まず、第1に、鉄道会社の関わる「まちづくり」の概念に新たな意味を込めて頂いたことです。「鉄道会社がまちづくりをやるのだ」「鉄道会社は、改札の中にとどまらず、「まち」に出て行くのだ」「鉄道会社が公共空間を持っていることをうまく活用していくのだ」そして「鉄道会社が地域の幸せを作っていくのだ」などといった言葉から、新たな「まちづくり」の意味づけを頂いたと感じています。

第2に、「エリアとしての地域マネジメント」にも新たな意味づけを頂いたと感じています。具体的な表現として、「鉄道会社が自治体をつなげていくのだ」、さらに、「住民や地元の声を起こして、行政を動かしていくのだ」、そして、「沿線地域のブランディングが重要だ」といった意欲的な言葉で表現頂きました。

このほかにも、「まちづくり」に関わる諸課題に向けた貴重な提言があり、取組の課題とともに、ますます発展・進化していく可能性があることがわかりましたし、貴重な示唆を頂いたと感じています。

さて、当協会としても、民鉄各社の取組を一層強力に支援・サポートし、協力していきたいと考えています。このような思いを明確にしていく観点からも、当協会内で昨年より着手して

いる当協会の定款の見直しにおいて、それらを的確に反映していこうと考えています。

具体的には、まず、協会の事業目的に関し、これまで、「鉄道輸送力の増強」と「安全輸送の確保」の2つを挙げていますが、これを現在の状況にかんがみ、これからは「安全輸送の確保」は当然第一の目的に掲げるとともに、「良質な交通ネットワークの形成」と「利便性の向上」を新たに掲げること考えています。

さらに、協会の事業内容としても、これまでなかったものを追加することとし、新たに、「地域の交通ネットワークの充実」、「まちづくりへの参画」、「地方公共団体と連携した地域の共生の取組」を明記する方向で検討しています。

また、本日も話題に出ていました、不動産事業、ホテル・旅行等観光事業、商業・流通業、物流事業等、鉄道以外の各事業を鉄道会社が担っていますが、「それらと鉄道事業を有機的に連携させ、相乗効果の発揮等につなげる取組」についても、協会として各社に協力していくのだという趣旨を、事業内容として明記する方向で検討を進めています。

今後、総会の手続きを経て改正内容を決定した後は、協会としても、これらに基づき具体的な取組を進めていく段取りとしています。

これを受け、民鉄業界としての取組の方向性、方針、具体的な内容を固めていく必要があり、その意味でも、本日のセミナーは、示唆に富み、有益で、ありがたい内容であったと感じています。

結びに、当協会としても、このような取組を経て、民鉄各社が時代にふさわしい沿線まちづくりに貢献し、鉄道事業の益々の発展、地域づくりの活性化に資する活動を積極的に推進できるよう、これをサポートしていくつもりであります。

皆様のご支援、ご協力を頂きながら、協会活動を強化して行くことをお約束し、改めて、本日までご参加の皆様にご心より御礼を申し上げ、閉会のご挨拶とさせていただきます。

本日は、ありがとうございました。